

経済情報

米銀貸出態度調査（2010 年 10 月）の結果 ～商工業貸出などを中心に貸出基準の緩和が続く～

【要 旨】

- ◇ 連邦準備制度理事会（FRB）の融資担当者調査（3 ヶ月ごとに年 4 回実施、今回は 10 月調査。米銀 57 行、外銀 22 行が対象。調査期間は 10/5～10/19。）の結果が発表された。
- ◇ 商工業貸出では、貸出基準緩和の動きが進む一方、資金需要は小企業向けを中心に減少した。商業不動産貸出では前回調査からほとんど変化がなく、貸出基準は商工業貸出に比べて緩和の動きが遅れている。
- ◇ 個人向け貸出では、住宅ローンで貸出基準緩和の動きにブレーキがかかる一方、消費者ローンでは緩和の動きが続いた。資金需要は総じて弱含みの動きが続いている。
- ◇ 米銀の貸出基準は緩和方向に動き出したもののペースは鈍く、完全な正常化にはまだ時間がかかる見通しである。他方、家計・企業の手元資金が潤沢なことから、貸出の回復は当面、緩やかなペースに止まると予想される。

1. 企業向け貸出：商工業貸出を中心に貸出基準の緩和が継続

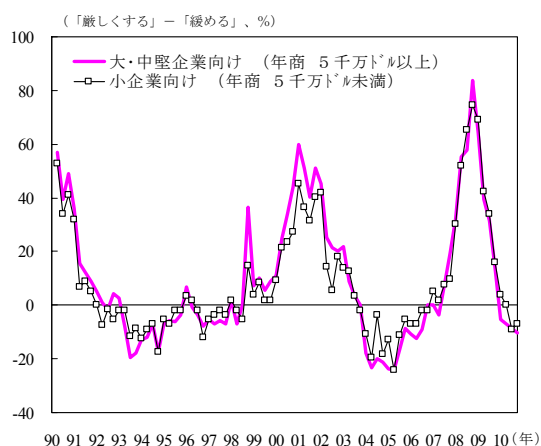
① 商工業貸出

商工業貸出では、前回調査に続き貸出基準の緩和が進んだ。大・中堅企業向けでは、3 ヶ月前と比べて貸出態度を「厳しくした」銀行の割合から「緩和した」銀行の割合を引いたネットの比率は前回の▲8.8%から▲10.5%にマイナス幅が拡大し、4 調査連続で「緩和超」となった（第 1 図）。小企業向けでも、同比率は▲7.1%と 2 調査連続で「緩和超」となったが、超過幅は縮小した。具

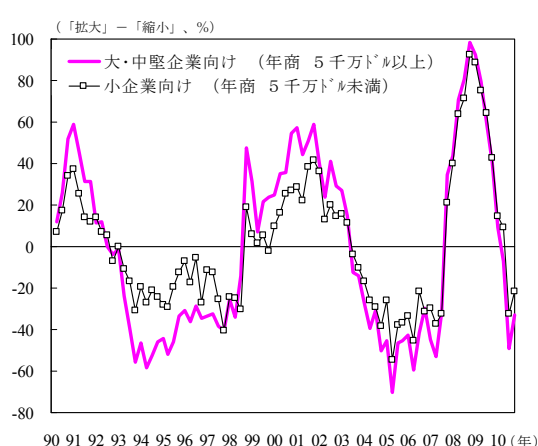
体的な貸出条件でも緩和の動きが続いており、スプレッドを拡大した銀行のネットの比率は、大・中堅企業向けで▲33.3%、小企業向けで▲21.4%と、ともにマイナス幅は縮小したものの「縮小超」を維持した（第2図）。貸出基準緩和の理由では、ほとんどの銀行が「経済見通しの好転」、「他行との競争の高まり」をあげている。

資金需要は、景気減速をうけて小企業向けを中心に弱まった。「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は、大・中堅企業向けで前回調査の小幅「増加超」から再び「減少」超に転じた。小企業向けでは「減少」超幅が拡大した（第3図）。なお、資金需要減退の理由として、「在庫・設備投資資金需要の減少」、「内部資金の増加」などがあげられている。

第1図：米銀商工業貸出の貸出基準

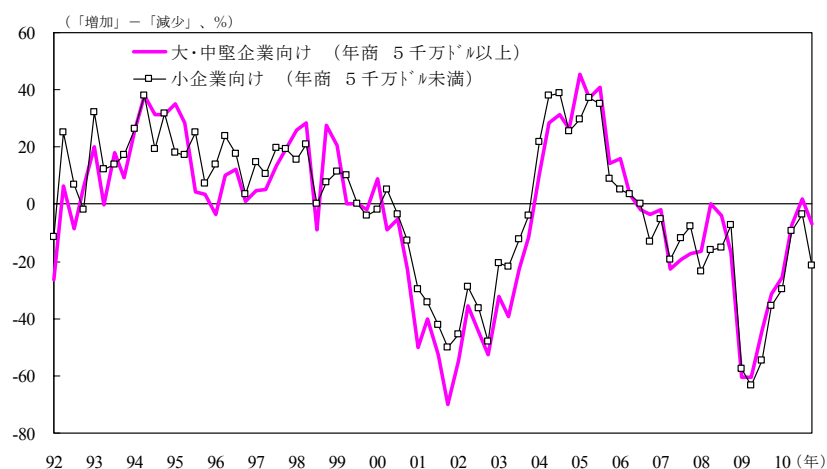


第2図：米銀商工業貸出のスプレッド



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第3図：米銀商工業貸出の資金需要



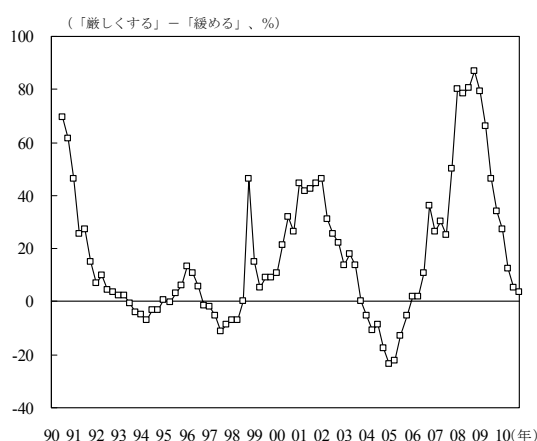
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

② 商業用不動産貸出

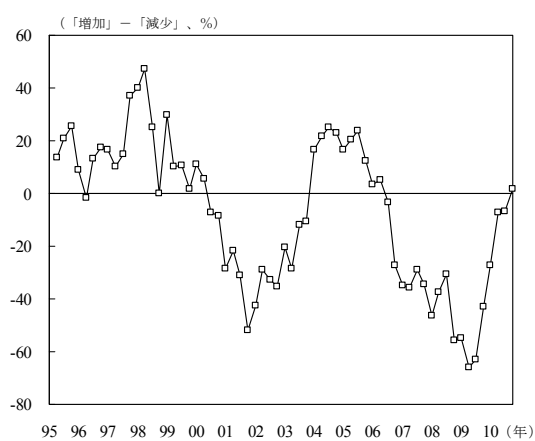
商業用不動産貸出では、貸出態度を厳しくした銀行のネットの比率は前回調査の 5.3%から 3.6%へと小幅低下した。僅かに「引締め超」となっているが、貸出態度厳格化の動きにはほぼ歯止めがかかった（第4図）。但し、緩和した銀行の数は2行に止まり、商工業貸出（7行）に比べると緩和の動きは鈍い。

資金需要は、「増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回の▲7.0%から 1.8%へと小幅「増加超」に転じた（第5図）。もともと、商業不動産市況は足元で再び軟調となっており、先行きについては予断を許さない状況にある。

第4図：商業用不動産貸出の貸出基準



第5図：商業用不動産貸出の資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 個人向け貸出：住宅ローンでは緩和の動きにブレーキ

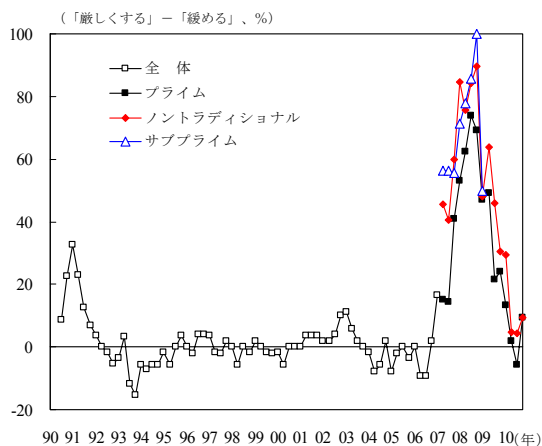
① 住宅ローン

住宅ローンの貸出基準は、緩和の動きにブレーキがかかっている。3 ヶ月前に比べて貸出態度を「厳しくした」銀行のネットの比率は、信用力の相対的に高いプライム向けで 9.5%と「引締め超」に逆戻りした。また、非伝統的な住宅ローン向け^(注)では 4.5%から 9.5%へと「引締め超」幅が拡大した（第6図）。さらに、ホームエクイティ・ローンでも同比率は▲7.1%から 10.5%へと「引締め超」に転じている。

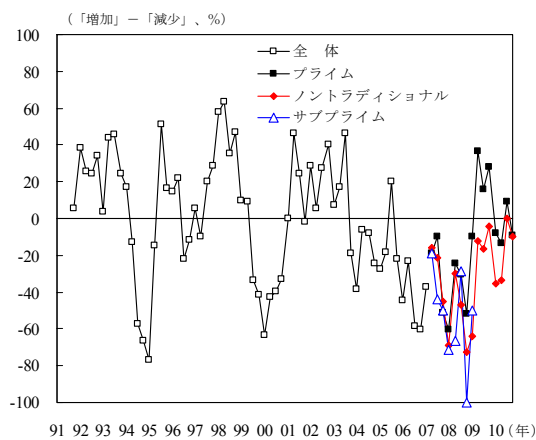
(注) 数年間、元本返済を先送りする「インタレスト・オンリー・ローン」など

一方、資金需要も住宅販売の低迷から弱含んでおり、「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率（プライム向け）は、前回の 9.1%から▲9.3%へと再び「減少超」に転じている（第7図）。

第6図：住宅ローンの貸出基準



第7図：住宅ローンの資金需要



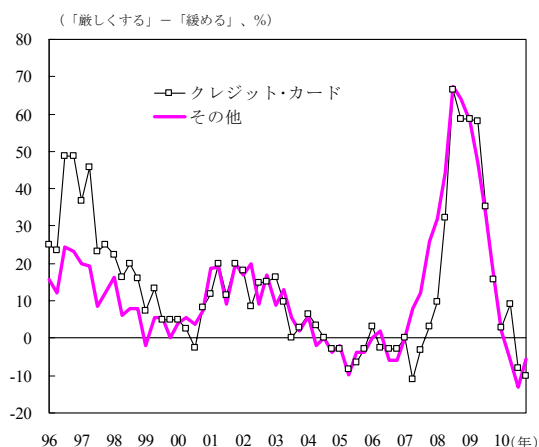
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

② 消費者ローン

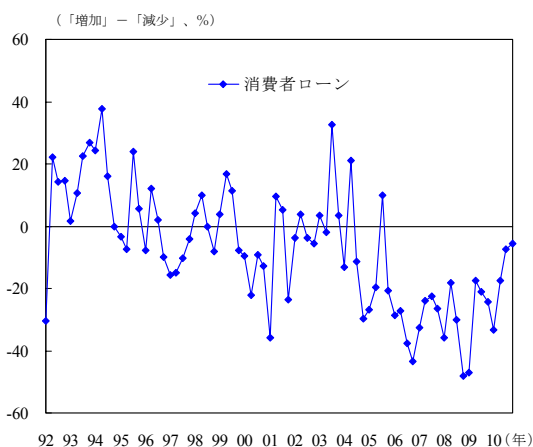
消費者ローンでは貸出基準は緩和基調を維持している。貸出基準を厳しくした銀行のネットの比率は、クレジット・カードが▲7.9%→▲10.0%と「緩和超」幅が拡大した。クレジット・カード以外の消費者ローンも▲13.2%→▲5.5%と「緩和超」幅は縮小したものの緩和の動きが続いている（第8図）。

一方、資金需要は前回調査から大きく変わらず、弱含みとなっている。「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は前回調査の▲7.5%から▲5.6%へ「減少超」幅が小幅縮小した（第9図）。

第8図：消費者向けローンの貸出基準



第9図：消費者向けローンの資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

3. 貸出の回復ペースは当面、緩慢

以上のように、米銀の貸出基準は商工業貸出などを中心に緩和の動きが緩やかに進んでいるが、絶対水準では依然、厳しい状況にある。今回の調査では、「景気がコンセンサス通り（緩やかな景気回復継続）に展開した場合、貴行の貸出基準はいつ頃正常化するか？」との設問が加えられた。結果をみると、多くの銀行が正常化には時間がかかるとみており、特に商業不動産担保貸出（建設・土地開発資金）などでは過半数の銀行が予見しうる将来、正常化は見込めないと回答している（第1表）。他方、家計や企業の手元資金は潤沢であることから、貸出の回復は当面、緩やかなペースに止まると予想される。

第1表：米銀の貸出基準が正常化する時期

(回答銀行の構成比、%)	2011年 前半	2011年 後半	2012年中	2012年 より後	予見しうる 将来なし	引締めて いない
商工業貸出						
大・中堅企業向け	15.4	5.8	15.4	5.8	19.2	38.5
小企業向け	9.6	11.5	15.4	7.7	26.9	28.8
商業不動産担保貸出						
建設・土地開発資金	0.0	0.0	15.1	17.0	56.6	11.3
その他	5.8	9.6	17.3	13.5	40.4	13.5
個人貸出(プライム)						
住宅ローン	7.5	7.5	18.9	15.1	34.0	17.0
クレジットカード	5.9	2.9	29.4	8.8	29.4	23.5
その他	10.0	6.0	20.0	8.0	28.0	28.0
個人貸出(非プライム)						
住宅ローン	3.4	0.0	6.9	6.9	62.1	20.7
クレジットカード	0.0	4.5	0.0	13.6	54.5	27.3
その他	0.0	3.6	0.0	10.7	57.1	28.6

(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H22.11.9 山中 崇 takashi_2_yamanaka@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内 2-7-1